

各位

平成21年9月15日

会社名 株式会社パレモ
 代表者名 代表取締役社長 中本 敏幸
 (JASDAQ・コード番号: 2778)
 問合せ先 常務取締役経理管理部長 永井 隆司
 TEL (0587)24-9771

平成22年2月期第2四半期及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成21年4月2日付当社「平成21年2月期決算短信」にて発表いたしました第2四半期累計期間(平成21年2月21日～平成21年8月20日)及び通期(平成21年2月21日～平成22年2月20日)業績予想を、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

1. 平成22年2月期第2四半期連結累計期間 連結業績予想数値の修正

(平成21年2月21日～平成21年8月20日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回予想 (A) (平成21年4月2日発表)	16,020	115	125	△500	円 銭 △68 92
今回修正 (B)	15,565	313	325	△370	△51 00
増減額 (B - A)	△455	198	200	130	—
増減率 (%)	△2.8	172.2	160.0	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成21年2月期 第2四半期)	16,775	320	344	△ 5	円 銭 △0 70

2. 平成22年2月期通期 連結業績予想数値の修正 (平成21年2月21日～平成22年2月20日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回予想 (A) (平成21年4月2日発表)	30,140	175	175	△685	円 銭 △94 42
今回修正 (B)	29,900	340	380	△550	△75 81
増減額 (B - A)	△240	165	205	135	—
増減率 (%)	△0.8	94.3	117.1	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成21年2月期)	33,014	218	310	△321	円 銭 △44 36

3. 平成22年2月期第2四半期累計期間 個別業績予想数値の修正

(平成21年2月21日～平成21年8月20日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回予想 (A) (平成21年4月2日発表)	16,000	130	140	△480	円 銭 △66 16
今回修正 (B)	15,553	333	344	△399	△55 00
増減額 (B - A)	△447	203	204	81	—
増減率 (%)	△2.8	156.2	145.7	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成21年2月期 第2四半期)	16,773	333	360	11	円 銭 1 54

4. 平成22年2月期通期 個別業績予想数値の修正 (平成21年2月21日～平成22年2月20日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回予想 (A) (平成21年4月2日発表)	30,100	200	200	△660	円 銭 △90 97
今回修正 (B)	29,888	360	400	△580	△79 94
増減額 (B - A)	△212	160	200	80	—
増減率 (%)	△0.7	80.0	100.0	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成21年2月期)	32,994	244	339	△293	円 銭 △40 42

5. 修正の理由

(第2四半期累計期間)

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、世界的な金融不安に端を発した後退により、企業収益が大幅に落ち込み、また雇用情勢や賃金環境の悪化により、個人消費においても厳しい状況で推移しました。

こうした状況のもと、当社グループの第2四半期累計期間の売上高は、個別の既存店売上高前年比については、当初業績予想数値の前提条件の89.0%から88.4%に減少し、さらに期間中の新規出店を8店舗、退店を27店舗とほぼ予定通りの出退店を行ったものの、新設店におきましても上記環境の影響を受け当初の予定を下回りました。

また、中国の海外子会社である巴麓夢(上海)服飾貿易有限公司は6月16日に出資持分の譲渡を行いました。以上の結果、連結売上高は前回公表より455百万円下回る見込みであります。

当第2四半期累計期間の利益面におきましては、売上高の未達による利益減はあったものの、収益基盤の再構築を目標に販売費及び一般管理費全般における削減（特に店舗の適正人員化や賞与の支給月数減による人件費減、新卒採用の中止等の施策による採用費減、および賃料低減交渉による賃借料減）の取り組みを行ってまいりましたが、それが功を奏し営業利益・経常利益ともに計画を上回る見込みであります。

また、第2四半期純利益につきましては「棚卸資産の評価に関する会計基準」の適用による、期首在庫に含まれる変更差額損失等の特別損失が発生しておりますが、営業利益・経常利益の増加をうけ、第2四半期純利益についても130百万円の増加になっております。

なお、個別の業績予想との差異についても同様の理由です。

(通期)

下半期におきましても、引き続き厳しい消費環境が続くものと予想されますが、ローコスト経営を更に徹底して取り組み、収益基盤の再構築を行ってまいります。

通期業績予想に関しましては、直近の経営環境および既存店売上前年比の進捗状況を踏まえ、第2四半期累計期間の業績修正額とあわせ、連結および個別業績予想とも上記のとおり修正いたします。

なお、今回の業績予想の修正に伴う配当予想の変更はありません。

以上